

信無くんば立たず

孔子は政治の要諦として、政治を行う上で大切なものは軍備・食料・民衆の信頼であり、中でも重要なのは民衆の政治への信頼であると説いています（論語「顔淵」）。

今や年金制度が破綻寸前にあることは、皆さんもご存じのとおりです。年金制度の破綻という言葉は初めて聞いたのは何時のことか記憶にもありませんが、しかし、一向に改善される様子はありません。こうした中、国民年金の保険料を納めない個人や企業が増えており、2010年度の国民年金納付率は2月末の時点で58.2%に止まっており過去最低となっています。更に、会社員が加入する厚生年金は未納額が過去最大規模に達したとの報道もありました。

いうまでもなく、未納が増えると年金財政が悪化し、給付水準の低下や保険料の増額を招くことになりかねません。

保険料未納者の中には、意図的に払わない悪質なケースが相当数あり、このことは大変遺憾なことです。国においては、厳正な未納対策を行っていただきたいと思っています。また、年金の問題は将来年金を受け取る現役世代の皆さんにとって特に深刻だと思いますが、その現役世代の皆さんの未納が大きな課題となっているのは、皮肉としかいいようがありません。

ただ、こうした未納問題が何故起こるかといえば、未納者の意識に問題があることは否定いたしません。同時に、年金制度そのものに対する国民の信頼が薄いということも指摘せざるを得ません。

特に、年金記録問題をはじめ、貴重な年金財源の無駄遣いや弥縫的な議論に終始する国会の状況などから、年金問題は、今や政治不信の原因にさえなっています。

とはいえ、年金の問題は本来自分自身の問題であるにもかかわらず、人任せにしてきたところがありはしないでしょうか。

ここに来て、ようやく、最後は国が何とかしてくれると思っていたがそうではなさそうだ、ということが国民にも見えてきました。

国民が保険料を払うということは、国民が年金制度に積極的に参加することと一緒に済みます。言い換えれば、今は、国民は国の制度に背を向けている状況なので、早急に、国民の皆さんが信頼して負担ができるような仕組みを作っていただきたいと思っています。

その為にも、政治不信は払拭しなければなりません。

国民から信頼・信用されない政治は成り立たないように、国民から信用されない国家もまた成り立ちません。

まさに、如何なることも「民、信無くんば立たず」ということです。

（塾頭 吉田 洋一）